



添え木になって、子どもに笑顔
顔を ボランティア大募集
あらかわ子ども応援ネットワーク

「子どもの居場所、食支援、学習支援のボランティアをしませんか。」

子どもの貧困は目に見えて来ないのが現状です。子どもの相対的貧困率は七人に一人です。母親一人で子どもを養育している家庭の相対的貧困率が高く、就学援助を受けている小学生・中学生の割合も上昇が続いています。一人で食事をとる子ども、食に困っている子ども、学習の場がない子どもが私たちの地域にも暮らしています。そんな子どもたちに温かい手作りの食事提供、学習支援をしてほっとできる子どもの居場所作りをしている団体が区内に十三あります。

あらかわ子ども応援ネットワークは、これらの団体と区内の住民の方々、行政機関、社会福祉の専門機関、学術機関が連携して地域の子どもの健全な成長を支える活動を展開するネットワークです。

「多くの企業や住民の方が寄付をされています。」

毎週、ジャムや食パンやお米を自転

車で持参されてくる方、学生時代に南千住の方々に親切にして頂いたお礼にと定期的に野菜を送って来る福井県の方もいます。昨年のクリスマスには三菱ふそうトラック・

バス株式会社の社員の方々が個別に包装をした数百にも昇る年齢・男女別に分類された色とりどりのプレゼントが、トラックで荒川区役所に搬送され、各活動団体に分配されました。アトミジャパン(株)は、毎年

の寄付のほかに、先日は米三トンを送って来ました。日本マツケイン・フーズ(株)は、フライドポテトを送って来てくれています。

「助けてと声があげられない。」

皆さんが育ったころの日本も貧しかったですよ。でも、今のような核家族ではなく、食卓を囲む家族の中、また隣近所の往来のある中で、孤独感はなく気持ち豊かだったと思います。

お金だけ渡され、一人で食事をする子どももいます。親代わりに姉妹の世話のために学校に行けない子どももいます。虐待を受けても声をあげることができない子どももいます。おとなと違い、地域



など外部との接触がないため、過酷な状況が当たり前のことと感じている子どももいます。ただ、空を見上げて早く大人になり、ここから抜け出したいと思っている子どももいます。

「添え木になって若い芽を育てませんか」
若い木は添え木があることで倒れることなく、まっすぐに育ち、青葉を茂らせることができます。

毎月、四月曜日午後六時にボランティアの説明会を開催しております。今月は、二十六日です。

食事作りができる。お手玉やおはじきを教えてあげられる。勉強を教えてあげられる。話し相手になれる。温かい味噌汁を飲めば、温まるように皆さんのできる範囲で力を貸していただければ、子どもは笑顔になります。

また、寄付も随時受け付けており、特におにぎりに使用する海苔や調味料が不足しております。
寒い冬、子どもに安らぎを。



ボランティア&寄付のお問合せ

荒川区南千住1-13-20

荒川区社会福祉協議会地域ネットワーク課

(3階) 荒川ボランティアセンター内

TEL : 03-3802-3338 FAX : 03-3802-3831